

## 1. 莖立期直前の麦踏み

気象庁の3か月予報（2026年1月20日発表）によると、3月の平均気温は「高い」確率50%、降水量は「少ない」確率40%という予報が出されています。気温が高い予報のため、生育が早まる可能性があります。ほ場で麦の生育を確認して、莖立期直前の麦踏みを行いましょう。莖立期直前の麦踏みは、穂揃いを良くし、成熟ムラのない倒伏に強い麦にする効果があります。

## 2. 湿害対策

莖立期以降の湿害は、収量や品質の低下を招きます。降雨に備えて明渠の設置・溝さらいなどの排水対策をしっかりと行いましょう。

## 3. 雑草防除

雑草は収穫作業の支障になるだけでなく、種子が収穫物に混入すると品質低下の原因にもなります。雑草が発生しているほ場では、莖立期までに防除を実施しましょう。雑草の生育が進んでいると、除草剤の効果が劣る場合があります。適切な時期に使用できるよう、ほ場をよく観察しましょう。

## 【防除農薬の例】

令和8年2月10日現在登録状況

農薬名	適用雑草名	作物名	使用時期	使用方法	使用回数
ハーモニーDF	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ ギシギシ類 カズノコグサ	小麦	一年生広葉雑草：は種後～節間伸長前 節間伸長開始期～穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで スズメノテッポウ：は種後～節間伸長前 ギシギシ類：秋播栽培の幼穂形成期 但し、収穫45日前まで カズノコグサ：麦1葉期～節間伸長前	雑草 茎葉 散布 又は 全面 散布	1回
	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	大麦	は種後～節間伸長前		
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	小麦 (秋播)	小麦節間伸長開始期まで(雑草生育期) 但し、収穫45日前まで		
		大麦	大麦節間伸長開始期まで(雑草生育期) 但し、収穫45日前まで		
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	小麦	生育期 但し、収穫45日前まで		1回

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

## 4. 赤かび病防除

赤かび病が発生すると出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行いましょう。

## 【防除農薬の例】

令和8年2月10日現在登録状況

農薬名	小麦		二条大麦	
	使用時期	使用回数	使用時期	使用回数
ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	収穫14日前まで	2回以内
トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
トリフミン水和剤	収穫14日前まで	3回以内	収穫14日前まで	3回以内

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

## 【赤かび病防除のポイント】

二条大麦 (ニューサチホゴールデン、もち絹香)	防除適期：穂揃期7～10日後（蒴殻抽出期） ポイント：不稔粒発生や登熟期間中に雨が nhiều 場合は、1回目散布の7～10日後を目安に2回目の散布をしましょう。
小麦	防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂7日後）、2回目・1回目の20日後 ポイント：登熟期間中に雨が nhiều 場合は、3回目の散布を行いましょう。

「麦類無人ヘリ防除」・「麦類赤かび病防除薬剤」の取りまとめが行われていますので、ご利用よろしくお願ひ致します。

# イネカメムシの防除を徹底しましょう！



【↑成虫】



【↑幼虫】

近年、イネカメムシの発生が拡大しています。  
令和7年も県南地域でイネカメムシの発生が確認されています。

イネカメムシは、出穂期に加害すると稲が**不稔**になります。  
また、乳熟期に加害すると基部斑点米で**品質が低下**します。

出穂期 ▶ **不稔で  
収量低下**



乳熟期 ▶ **基部斑点米で  
品質低下**



## 出穂期の防除をプラス！

従来の斑点米カメムシ類の防除に加え、イネカメムシによる不稔を防止するためには、出穂期の薬剤防除が必要です。  
防除時期・回数の見直しを行いましょう。

## 発生予察情報による適期防除

被害が発生していない地域でも、イネカメムシが発生している可能性があります。県の予察情報を注視して防除に生かしましょう。

## イネカメムシの防除体系

生育ステージを確認して適期に防除を実施しましょう！

		出穂期	穂揃期	乳熟初期	乳熟後期		
越冬世代成虫		→					
		第1世代幼虫					
		不稔 予防	斑点米 予防		斑点米 予防		
		薬剤散布 1回目	← 1週間後 →	薬剤散布 2回目	← 1週間後 →	薬剤散布 3回目	
							生息場所 除去
							収穫後 秋耕
<ul style="list-style-type: none"> <li>●不稔防止（出穂期）、斑点米防止（出穂1週間後）の2回 ※発生が多い場合には3回</li> <li>●液剤で防除</li> <li>●MEP（スミチオン）、エトフェンプロックス（トレボン）、ジノテフラン（スタークル）等の効果が高い</li> <li>●水稻収穫後、速やかに秋耕の実施</li> </ul>							